明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回）
明治二十一年十二月二十八日內務省許可（廿日發行）

大正六年十一月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百三十六號

婦人衛生雜誌

第三百三十六號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

抄録

雜報

廣告

稟告

來る十二月三日(第一月曜日)午前十時より本郷區湯島(お茶の水)東京高等女學校作樂館に於て本會例會を開き、會員有志の料理法實習有之筈に候、但し當日は都合により衛生講話は相休み可申候右稟告仕候也

料理實習の件に就ては何卒本會事務所へ御問合はせ願上候

大正六年十一月

私立大日本婦人衛生會

私立 大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれは此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も怠にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立 大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節には姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は必要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲めに遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　本會規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て本會計の收支決算竝に庶務の概況を報告すべし●第廿二條　本會計の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　本會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數の増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし　支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は本會員外の者にして金圓若くは物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を附し寄附者の姓名及品目を簿册に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月頒收人を差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて口座番號東京一〇六〇〇番本會事務所宛に振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市本郷區駒込林町二番地
私立大日本婦人衛生會

講演

女子の皮膚の特質

賀川哲夫

唯今荘司さんから御紹介下さいました通り私は甚だ未熟な賀川と申す者でございます。豫て荘司さんから此會の事は伺つて居りまして、是非一度話をしてはどうかといふことでありましたけれども、迚も私の様な者が皆様方に御參考になるやうなお話を致す事は到底出來る筈はないのでございますから、其都度お斷りを致して居たのであります。所が今度はもう既に定めて了つて廣告もしたから、是非何かお話を致さなくてはいけないと云ふ嚴命を受けましたので、私も到々已むを得ずと云つては甚だ可笑しい譯でございますけれども、遂に御承諾の返事を致した次第でございます。さういふ譯でありますから、此表題も矢張荘司さんがお定めになつて下さつたのでございます。

さて女子の皮膚の特質といふやうな問題は、非常に重大な且つ面白い問題でありまして、多數の材料と充分の知識とを備へた方が此問題に就てお話をなさつたならば、隨分有益な面白い事であるだらうと思はれますが、悲しい哉私にはそれだけの技能がございませんから、唯ほんの責任を逃れる爲、甚だ奇怪な申分でございますけれども、今日一寸此事に就きまして私の考を申上げやうと思ひます。

女子の皮膚位美しいものは無い

一口に申せば、巧に化粧せられた女子の皮膚位美しいものはほかに無いと私は申したいのであります。でありますから、昔から美術の上に於きましては、美

の標徴として女子の身體を取扱つて居ります。ミケランジエロに由つて永遠の光を獲た肉體美は、其骨骼や肉つきを除いては問題に成らぬ事は當然でありますけれども、此肉を包む皮膚が美の要素を缺いて居ては亦肉體美は成立しないのであります。又今日歐羅巴の婦人の服裝には、首と胸と腕の半分位は皮膚の色が顯はれるやうな服裝が禮裝として行はれて居るのであります。是れは總て美といふことを主眼とする社交上の必要から婦人皮膚の美麗な事を利用せんがために出來て來た服裝ではあるまいかと思はれるのであります。

物は見樣に依て變る

さういふ風に東西を通じ、古今を押しなべて女の皮膚は美しいものとせられて居るのであります。所が總べて物は見方に依つて判斷が違つて來るものであります。例へば月の出る時に、山の上に懸つて居る時は非常に大きく見えますが、蒼空へ昇るにつれて小さく見えて參ります。是は詰り山といふ一つの比較物があつたので大變大きく見え、山から離れて大空に昇つて了へば近くに何にも比較すべきものが無いから小さく見えるのであります。此「コップ」でも見方に因つて色々違ふ、上から見た人は圓いと申します、横から見ますと四角で、下から見たら十角とか十二角とかいふ人もあるかも知れない、さういふ風に、總て物は見方に依つて色々と判斷が變るものであります。それでは美術家が甚だ美しいものとして取扱つて居る女の皮膚が、皮膚病を取扱ふ醫者から見まして、矢張同じく美しく見えるであらうか、どうかといふことは甚だ疑問であるのであります。

皮膚病醫の眼に映ずる女子の皮膚

私は今日皮膚病を始終取扱つて居ります皮膚病醫者として御婦人方の皮膚を觀察致しますと、どうも美術家の言ふ如くに只々美しいといふ一面だけを觀て居る譯にいかないのであります。美術家の謂ふやうに、唯だ美しいとして是を美の權化として謳歌することが出來れば甚だ好都合でありますけれども、

遺憾ながら私は今日こゝで、女子の皮膚は餘り美しいものでは無いといふことを申上げなければならぬ境遇に立到りましたので、皆樣方からお怨を受けるやうなことはないかと思ひまして、甚だ心配して居るのであります。それには一つの理由があります。醫者といふものは一體どういふ風に物事を觀るかといふ事を考へて見れば、それは直ぐに判る事であります。私から申せば、醫者といふものは物事を餘り良く觀ないものであります。例へば一寸背のすらつとした、色の白い方がお出でになると、何だかいやに痩せた人だ、病氣でもありはしないかといふ樣な事を申します。又是と反對に非常に肉付の良い方が見えますと、どうもあの方は卒中質の方だとかいふ樣なことを申しまして、どうも兎角口が惡い者でございます。それと同じ樣に矢張皮膚の觀察も惡い方面ばかりを注意して居ります。が併し善く考へて見ますと、此觀察の方法は、私共醫者としての天職から致しまして當然の事でございます、加之、私共が右の樣な觀察眼を持つて居ますればこそ、御婦人方の皮膚は益々美を發揮する事が出來るのであると云ふ事を御承知願い度い次第であります。何の故を以て私がこんな事を申しますかは、次に述べる樣な譯なのでございます。

皮膚病醫は婦人美の味方である

一面から考へて見ますと、美術家は只表面に現はれた美を捕へて、其美を謳つて居るのであります、けれども私共はさうではない、併し其美は美として矢張美術家と同じやうに美しいといふことは承知し認めて居りますが、更にもう一歩進んで深く觀察致しまして、成程女子の皮膚は美しいものに違ひはないけれども、皮膚は屢々病氣に罹り、或は其色合に變化が起る事があると云ふ所に眼を著けて、美を發揮せしむるには必ず之を除かなければならぬ、之を治療しなければならぬといふことを、第一の問題として居るのであります。言ひ換れば、私共は女子の皮膚の美を益々向上せしめ、增進せしめやうとする見地

に立つて批評を下し、又色々と努力して居るのであります。此のことをお考へ下さつて、どうぞ美術家以上に私共を買つて戴き度い事を私は希望致します。

さて私共の努力と批評とは「女子の皮膚の特質」と云ふ問題に如何なる解決を齎らしたでせうか、貧弱な知識と經驗とを根據と致しまして、私の考へ出しました事柄は、凡そ次に申述べるやうな事でございます。

皮膚と內臟との關係

人間の皮膚の生活は皮膚そのものゝ獨立の生活ではなくて、種々の內臟と密接な關係を保つて居るのであります。そこで女の皮膚の特別の性質と云ふ事は男子の身體には無い所の女子特有の內臟と皮膚との關係と云ふ事から起つて來る問題であります。それはどういふ內臟であるかと申せば、詰り子孫の繁殖を司る所の內臟、卽ち卵巢であるとか或は子宮であるとかいふ樣な內臟でありまして、是等の內臟は皮膚の變化と極めて密接な關係を保て居るものであります。勿論男子の皮膚も內臟と一定の關係を保つて居ますけれども、其密接の程度は到底女子に於て見られるが如く著しいものではありません。身體が發育するに從ひまして、內臟も總べて發育して行きますが、皮膚の上に殊に著しい發育の結果が現はれて來るのは、此內部の生殖器の發育であります。子宮と卵巢とは相當の年頃になりますと、先づ第一に起つて來る變化としまして月經を起すのであります。此時に乘じて皮膚は著しい變化を起しますが、其變化を一々此處で擧げて申上げますと、恰度皮膚病の講釋でもする樣になつてしまひますから、それは止して、唯大體の事だけを申上げます。

毛髮の發育

身體が發達して來て少女時代を脫した時分に成りますと、先づ第一に目に立つ變化は毛髮に現はれて來るのでありますが、既に皆樣御承知の通り、丁度女子學校卒業前に成りますと、今迄赤味を帶びて居た

所の毛が黒く非常に光澤を帶びて來る、同時に身體の或部分の毳毛は段々太くなつて來る、さうすると眞白な皮膚と眞黒な毛髪とが相映じて婦人美は益々發揮せられるのであります。歐羅巴人殊にラテン民族の佛蘭西人などの內には、此時期に於きまして毛髪の發育が非常に良いために、其色合も歐羅巴人としては黒味の勝つた恰度日本人の様な色合を現して居る婦人があります。加之寧ろ異常に毛髪の發育を起して鼻下に立派な口髯を生して居る婦人が澤山有るといふことであります。さういふ風に此時期には普通の女子には無い部位にまでも毛髪の發生を起す事がある程、其發育の善い時期であります。併し又此時期には是と反對に、今迄發生して居た所の毛髪が脱落することもあります。斯の如く毛髪の發生狀態に變化が起るのは、毛の根に一定の變化が起る爲でありまして、假令其原因は內臓の變化と云ふ同一の原因でありましても、一面に於ては毛髪の發育を助けるけれども、亦一面に於ては毛髪の發育を害すると云ふ結果に成るのであります。

ニキビの原因及び療法

毛髪の發育と殆ど同時に現はれて來る皮膚の變化は皮膚脂肪の分泌の有様であります。之れを皮脂と申しますが、これは皮膚に光澤を帶ばしめ、又之れを柔軟に滑かにする作用のあるもので、毛髪も亦常に此皮脂を被つて居りますから美しい光澤を放つのであります。斯の如く皮脂は皮膚や毛髪を美麗ならしめるものでありますけれども、此時期に成りますと皮脂の分泌が著しく增加するが爲に、完全に皮膚面に排泄せられないで毛孔の內に溜つて、同時に黴菌の作用を受けて、遂に痤瘡を生じ又面皰を生じ又はお癤を起すことがあります。殊に痤瘡の頑固なものに成りますと、二年も三年も如何に治療しても決して治癒らないことがあります。これは治療の方法が不適當なためなので適當な治療法さへ行へば治らないことはありません。患者の方では、こればかりの痤瘡が治らないとは怪しからぬことだとして、醫者

の技術を疑ふことがありますが、併し此樣な痤瘡は唯外面から藥を塗り付けただけでは充分では無いのであります。私の考へでは、此場合痤瘡の原因は身體の内部に在つて、外面のみでは無いと思はれます。若し原因が外にあれば、藥を附ければ直に癒るべき筈であります。併し身體内部に在る原因を除かねば癒らないのでありますから、これに對して治療を加へねばなりません。其内部の原因と云ふのは何であると申しますと、身體の發育に連れて卵巢が急に發育して參りますから、或一つの成分を分泌する樣に成つて、これが皮膚に作用するのであります。

化粧する人に限つて起る皮膚病

それから此時期に起る皮膚病の内で、日常化粧に親んでおいでに成る御婦人に限り起るものがあります。といふのはどういふものかと申しますと。化粧用に使はれる所の煉白粉、或は其他白粉下といふやうなもので起る皮膚病であります。最も多いのは化粧品の原料に「リスリン」が使つてありまして、其中に黴菌が澤山に居て、是れが皮膚に擦り込まれて顔に一種の病氣が起るのであります。俗に「ハタケ」と申しますのは卽ち是れでありますが、圓い形の白い部分が出來て、其處の皮膚が糠の樣に剝がれて居ります。患者はこれを唯の「アレ」だと思つて益々化粧品を擦り込みますから、原因は益々追加せられて病氣は益々擴がつて來るのであります。然らばどんな白粉にこんな黴菌が居るかと云ふ事は、今日申上げることは差控へて置きますが、これに就ては充分研究が出來て居ります。總て「リスリン」を材料に使つた化粧品には、どうもさういふ黴菌が發生し易いのであります。併しこんな病氣は、原因と成つて居る化粧品の使用を中止すれば直に癒りますから、少しでも出來ましたら、相當の專門家にかゝつて指圖をお受けに成ればよろしいのであります。

以上申上げました事柄は、丁度女子の發育の第二期卽ち子供の時機を過ぎ去つて大人に移らうといふ時期に起る所の皮膚の變化であります。

月經と皮膚

身體が更に成長して參りますと、普通の御婦人なれば結婚、妊娠、分娩と云ふ三つの重大な仕事を遂行なさらなければなりませんが、是れが亦皮膚の變化を起す原因と成るのであります。其外此時期を通じて必ず起る所の月經も皮膚と非常に密接な關係を有つて居ります。普通の月經の場合には先づ體が倦怠いとか、頭が痛い、逆上るやうな心持がする位で濟みますけれども、或場合には皮膚に色々の變化が起ります、例へば皮膚や粘膜に出血が起ることがあります。恰度何かで打つた打傷のやうに紫色を帶びた圓い斑や或は四角の斑が出來ることがあります。是れには種々の程度がありまして、劇い場合には代償性月經と申しまして、唯出血する場所が變つた結果と謂ふので、毎月必ず一定の時期に起ります。粘膜では口の中の粘膜であるとか或は目の粘膜、鼻耳といふ樣な所から血液が出ることもあります。さういふ變化が顏に來た場合には、著しく醜い形になります。さういふ患者は其原因を知らないから、婦人科の醫師に診察を受けねばならぬと云ふことに氣が著かないで、皮膚科の診察をお受なさることがあります。又汗の臭が變つて來る事があります。汗が非常にいやな臭を帶びて來るので、御本人は月經の爲に斯ういふ臭がするといふことが分らないで、どうも近頃腋臭に掛つたと思つて診察を受ける事があります。そこで醫師が善く調べて見ると、腋窩ばかりではなくて、身體全部が何となく臭を發して、月經が濟んでしまへば、さういふ臭は消えてしまふといふことも隨分あります。さうして唯臭いといふばかりでなく、黃ろい汗が出たり、赤い汗が出たりします。涙も矢張さうです、俗に血の涙と申して、苦しい時に出るものださうですが、月經の時に時々これが出る事があるのであります。それから又御經驗の方もありませうが「ホロセ」が此時に出來ます。まるで蚯蚓か何かのやうな形に、搔けば搔く所が何所でも腫れて來るのであります。搔かなければ我慢が出

來ない程痒いではないが掻いて居る中だん〱と痒く成るから益々掻く、さうすると其處が膨れ上つて來るそれから又「ホロセ」の種類でありまして支那上海の附近や臺灣に澤山あるといふ病氣で、頬の處が急に腫れて、それと同時に熱が出て、少し體の工合が變つて來るといふやうな事が月經と關係を持つて居ることもあります。それから俗に雀斑と申しまして、鼻を中心として目の下邊りに小さい褐色斑が澤山出來ることがあります。是れは夏になれば濃くなり、冬になれば薄くなるものでありますが、月經の時には著しく濃くなります。其他前に申上げましたやうな皮膚の變化が矢張月經の時だけに限つて現はれて來ることもあります。それから卵巢や子宮の種種の病氣で、恰度月經の時に起ると同様の變化が内臓に起りますと、皮膚にも同様に變化が起つて來るのであります。是れは婦人科專門家の研究すべき事でありますから、私共は精しくは申上げる事は出來ませぬ。

妊娠と皮膚

次に御婦人方の最も重大なる任務と申します所の妊娠の場合には、皮膚は痛ましい程に變化を受けます。是れは既に皆様方の御經驗に成つた事でありまして、私が訥辯を以て縷々申上げる程の事でもございませぬけれども、順序として簡單に申上げます。妊娠の時に起る皮膚の變化は、月經の時に起る變化を二倍したものに過ぎない、詰り月經の時の變化の劇しいものと見れば良いのであります。最も著しい變化は皮膚の色の變化でありますが、一番先に眼を引くのは、眼の周圍が黑くなる、丁度乳のまわりに色が著くやうに、眼のまわりが黑く成る事で、是れは殆ど總ての妊婦に現はれる變化でございます。極く昔から――十四世紀頃から既に普通の人が此事に注意して居ります。是れは肝斑と申して居りますが、どういふ譯で斯ういふ風に色が著くかは未だ判つておりません。或人は肝斑は結核性の人に多いと申します。或は結核性の人に多いかも知れませぬ。

けれども結核でなくて妊娠の爲に是れが起る場合は非常に多いのでありますが、是れは妊娠がお產に由つて終りを告げますと自然に消えて行きます。それと今度は反對に、今迄普通の色であつた所の皮膚が色素を失つて白い斑紋を生ずることがある、俗に白「ナマズ」と申します。是は普通場所を選ばず、色々の形になつて、丁度地圖を擴げて見たやうな、甚だ不規則な形を持つて居るものであります。其外頭髮の薄く成ることや、爪に變化が起る事などは既に皆樣の御承知の事と思ひます。

それから今度は妊娠を終りまして產褥になりますと、一番先に髮が脫け始める。此時の脫毛は性質の善いものでございますから、直に恢復して來ます。又今迄色が著いて居た皮膚が段々色が褪めて來て、さうして普通の色に恢復する。眼の周圍の色も薄くなるし、其他の場所も段々癒つて來ます。お乳の色は、是は子供に乳をやつて居る間は癒りませぬけれども、妊娠の末期程濃くはなく、幾らか薄くなつて來るのであります。

名譽の標徵

今迄申上げたことを考へて見ますと、御婦人方の皮膚は元來極めて美しい物でありますけれども、御婦人方としての天職を完うせんとして行はれる所の子孫の繁榮といふことに因つて其美が傷つけられて、醜くなるのであります。斯く申しますと甚だ割が惡い話で、苦しい思をして子孫の繁榮を圖つて、身體の美を損じてしまふので、御婦人方に取りましては誠にお氣の毒の事でありますが、私考へますには是れは一つの勳章で、軍人が戰爭に出まして怪我をする、皮膚に傷が付く、それと同じことで、御婦人方は重大な任務を幾度も果されて、女としての天職を全うなさつたといふ甚だ名譽ある徵象が皮膚の上に現れたのであります。で私共はさういふ方の皮膚を拜見する度毎に、誠に結構なことで尊敬すべき方だと思つて居ます。

此外まだ澤山お話申上げたいことがありますけれど

も、今日私が御婦人方の皮膚の特質といふことに就て申上げやうと思つたことはこれだけであります。女の皮膚の特質といふ事は、男子と比較したことであるから、今日は殊更男子には有るべき筈の無い所の月經、分娩、産褥と皮膚との關係を申上げた次第であります。

人種の皮膚色

それから問題外の問題と致しまして、御婦人方の皮膚に就て考へる時に必ず問題と成ることを私は追加致して見たいと思ひます。それは皮膚の色の事であります。俗間に「色の白きは七難隠す」とか申しまして、誠に色の白い方は重寶がられるものでございます。媒酌人が先第一に言はねばならぬ事は「……誠に色の白い方で」と申すことでございます。これで大抵の結婚は纏つて了います。從つて今日行はれ居る所の化粧法は總て色を白くすることで、色を白くすればそれでよいといふ考で色々新發明の化粧品が出來て來ますが、私はどうも、これは不自然なことであると思ひます。と申しましても御婦人方の色が黒いのが良いと云ふのではありませぬ。總て人間の皮膚の色は必要が有つて出來たのでございます。世界の人種を觀ますと、歐羅巴の北の方には色の黒い人は決して居りませぬ、之と反對に印度から南洋に參りますと色の白い人は無くて黒い人ばかりであります。日本と支那とは黄色で、殊に私の顔などは馬鹿に黄ろいさうで、或人は私の顔の皮を一枚剝がして茶布巾にすれば丈夫で宜いだらうと申したことがあります。夫れはどう云ふ譯かと尋ねましたら、色合が丁度善いらかだと申しました。何故人種に依つて皮膚の色が違ふかといふ事を考へて見ますと、此れには大なる天然の理由があるのであります、北國へ參りますと地球と太陽との距離が遠くなつて參りますから、日に焦けることは先づ少い、それが今度は南の方へ參りますと大變熱くて、一寸外へ出ても皮膚が焼ける程に熱い、そこでさういふ危險な太陽の光を避けて皮膚を保護すべきものが必要

なのであります。此役目をするものは即ち色素でございます。あの北極熊が雪が降る季節になりますと毛が白くなり、暖かくなると毛が褐色を帯びて参ります。亞米利加では昔勞働者として印度人を使つて居りましたが其印度人が久しく亞米利加に住んで居ますと大變色が白くなつて美しい人間になつたといふ話があります。それから極く手近い例でお話致しますと、夏に海水浴を致しますと大變色が黑くなる八月の終りに東京停車場に行くと、齒ばかり白い人を澤山見受けます。あゝいふ風に暑い日の當る處へ行けば色が黑くなる。何故日の映す處では色が黑くなり、日の映さない處では白いかと申しますと、これは太陽の光の中に目に見えない紫外線と云ふ光がありまして、これが皮膚に當りますと、そこに火傷が出來るのでありますから、其火傷を防ぐ爲に此色素が生ずるのであります。詰り皮膚の色は、太陽の光線の中に含まれて居る惡い作用ある光を防ぐ爲に出來て來たものでありますから、其人々の住んで居る處の氣候が暖いとか、暑いとか寒いとかいふ差別に依つて、矢張皮膚の色が變つて居るのであります。故に吾々日本人は丁度溫帶の生活に適するやうな皮膚の色を持つて居る譯であります。若し日本人の色がもう少し白かつたら、日中外に出れば皮膚に火傷が出來てカチ〳〵山の狸みたいに成るだらうと思はれます。でありますから、吾々日本人は矢張黃ろい褐色の妙に落着いたやうな色合の皮膚を持つて居るのが自然であると思ひます。印度などでは眞黑で光澤の有る黑味の色が好まれて居るのでありますが、誠に當然の事であります。日本では色の白いのが貴ばれて居りますが、是れは人間として美しい物を好むといふ本能以外に、歐羅巴の文物が輸入されて以來、すつかり是れにかぶれて、歐羅巴の人は色が白くて甚だ美しい、何でもあゝいふ風になつて見たいといふ考を起しました結果でございます。併し生存の本義から觀ましたら、日本人は矢張斯ういふ日本人特有の色が最も生活に適當して居るのであると

云ふ事を一寸お話申上げて置きたいと思ふのであります。甚だ詰ぬことを申上げまして貴重な時間を費しましたことは誠に恐縮に存じます。

叢談

光と神經

醫學博士　藤浪剛一

〔本篇は藤浪博士が光と生物との關係を論ぜられた中の一節で、非常に簡潔で且つ稍々專門的に傾いて居るが、「スペクトルム」の赤橙黄緑青藍紫と、その赤の方が熱の作川強く、紫の方が化學的の作川が強いと云ふ事だけを承知して居れば敢て了解に困難は無いと信じます。編者〕

フィンゼンは皮膚及び血液、細胞の成形質竝びに下等動物の收縮に及ぼす光の直接作用、化學線の刺戟作用に就て、詳細に力説した。氏は更に光が神經に作用して生長及び運動刺戟となつて種々の活力現象を起す事を研究した。

マルメ及びモレショーも亦此に似た光の作用に就いて報告した。兩氏は明處に在る蛙は暗所のものよりも神經及び筋肉の興奮性の強大な事を發見した。

人の神經系にも光の刺戟のあるは疑のない事である。眼は光の現象を媒介して特殊なる心理的反應を起さしむるものである。

日光の輝く日には、吾人の肉體及び精神興奮性を高め、陰鬱な天氣は人をして沈鬱ならしむる事は一般に知られてゐる所である。

光の心理的影響に關する問題には尙ほ化學的研究に俟つものが多く、生物學的實驗の如く、光源卽ち「スペクトルム」各色が及ぼす可き個々の心理的反應を觀察し且つ研究する事が最も策を得たものである。

有色光線を用ひたる實驗　アポペンコの如きは心理作用と有色光線の作用を研究せしが氏は實驗室を照すに有色光線を用ゐた所が聽感刺戟に及ぼす反應

は、速かに、且つ最大に達し、其色を異にするに從ひ其作用も異る事を發見し、光が熱線に接近すると共に活潑に且つ迅速に作用したと謂つた。人が赤色光線の室に居住すれば精神が快活となり、元氣に富み、靜坐する事を欲しない。肉體にも、この影響を及し、頭痛を感じる者があるが、馴れるに從つて消失する。

赤色光線に反して黄色光の心理的反應及び體質に及ぼす影響は、宛も平素日光を受けてゐる時と同じ様である。綠色に至つては多少化學線の作用を現して沈靜に傾かしめる。綠色は初めは眼に快感を與へるが、永く綠色に照されたる室内に居れば漸次不快となり。即ち精神發作は遲緩し、運動は抑制せられ、精神作用は靜止して興奮は消失する。

化學線が陰氣を誘ふ作用は紫線に近くに從つて益々著明となる。身の圍に輝く紫色は、精神上にも感覺にも其影響する處は頗る大きく、氣分は鬱ぎ、夢心地となるものである。又頑固な頭痛が持續し、精神は壓迫せられ、身體の障碍は堪へ難くなる。

ドリウスは有色照明に依つて脈搏の張力が減じて緩徐となり、搏動は小さくなり。其他の色は「スペクトルム」に於ける位置に相當して作用するが、黄色ばかりは其作用はないと謂つた。

トーゲルの研究も亦興味の多い成績である。氏は種種の色と視神經との關係を調べた。有色光線の視色素に對する影響は暫く措き、眼底の血管が各色によつてその太さを異にする事を見た。蛙の試驗では、赤色及び青色光線にては綠色光線よりも血管の擴張が著しく、又犬及び人にあつては、眼を綠色光で刺戟すれば血液循環の變化を來した。又同氏は犬及び人の視官に種々の色を作用せしめた所、大腦の機能及び血液循環に作用を及ぼして治療效果に達し得る事があると論じた。

青き光　二三の學者は神經病又は精神病に、有色光線を應用した。一八七六年伊太利の心理學者ポンツァは所謂色療法を稱用した。氏は憂鬱患者を赤色

に富める處に居らしめた所、間も無く快活となり、自ら食物を攝り得るに至つた。青い色を用ふれば躁狂患者が鎮靜した事を經驗した。ヤクシュも亦青色光が鎮靜作用のある事を證明した。氏は病室の「ランプ」を青色「コバルト」硝子の「ホヤ」で蔽ひし所が此患者は鎮靜し、安眠したことを觀察した。

赤き光　赤い光が興奮作用を現す事は、種々の實驗の結果で明かである。ビーは嘗てリオン市のルミエール寫眞工場を觀察したる折の日記によると總ての窓に赤色窓硝子を嵌めた室内に働く職工の神經は興奮し、刺戟に感じ易く、騷々しくなり、眞面目に仕事をやらないので、工場主も大に困り赤硝子に代りに綠の硝子に取り替へたれば初めて靜肅になつたと云ふて居る。

獸類の多くは赤色を見て興奮する事は、世の人の知る所である。蛙も亦赤色に反應し易い、それ故に燃ゆるが如き赤き布を以て容易に誘ひ寄せることが出來る。

癲狂患者を赤色光線で治療する時、醫師や看護人がこの爲めに不安及興奮の狀態に陷つた例がある。而し發熱患者にはこの興奮作用は弱い。

色の五感的道德的作用　ゲーテが色の五感的道德的作用を其著「色彩論」に記載した事柄は興味のあるものである。今左にそれを抄錄する。

現象をその反對の方面より觀察し、又この反對の方面に關して特に報告されたる知識を綜合すれば各色の印象は相異つては居るも錯覺しないから、夫夫れの狀態に働く事は明かである。之と同じく又氣分も各色に對して感興を異にするものである事は經驗に依つても知る所である。一佛國人の漫筆にも彼れは化粧室の諸道具の青色を他の色に變へて以來彼れと夫人との對話に變調を來した云々とありき。斯くの如く意味のある個々の作用を充分に感ずるには目を全く一つの色で覆はなくてはならない。例へば單色の室内に在るか、或は單色の硝子を通じて物を見るのである。即ち人はその色

に順應しその色は眼及び精神と一致するに至るであらう。黄色、赤黄色光（橙色）及び黄赤色（鉛丹、辰砂色）は陽氣である。黄色は純粋であれば常に鮮明なる氣分を帶び、晴々した快活なそして和らかに刺戟する性質を持つてゐる故に、衣服、窓掛、毛氈等を、此の色にすれば心地がよく、黄色が全く暖く且つ氣持よき印象を與へることは經驗と一致する所である。此暖い感じは、陰鬱な冬期に黄色硝子を透して景色を眺める時に覺ゆるのである。眼には喜び、心は伸び、氣分は晴れ晴れしくなり、春の四月の候に在る樣な思ひあり。帶黄赤色に在つては略ゝ黄色に類似するけれ共、彼に比較すれば其差著しいものである。赤黄色は元來熱感と快感とを與へるもので、沈みゆく太陽の赤い光、その和らかな光輝がその代表者である。而し乍ら強い黄色光に遇つては前者よりも刺戟が多い。精力あり健康なる人が特に此黄赤色を悦ぶのは少しも異とするには當らない。野蠻人が此色を好むのはよく知られた事であつて、小兒は鉛丹及び辰砂色の光線に照される事があつても之を嫌避しない。人が若し黄赤色を凝視すればやがて其色が身體器官を貫く樣な感じを覺えるであらう。即ち不可思議の震盪を起し、暗い場所に於ても持續する。黄赤色の布片は獸類を不安ならしめ又怒らしめる。或る教育のある人が夜明けに緋衣を纏ふ人に會へば不快感を覺えた時があつたと物語れり。

青色、赤色及び青赤色は陰氣である。そして不安の感じ弱い感じ且つ倦怠の感を覺ゆ。黄色が常に光明を伴ふと云へば青色は常に陰暗を伴ふと云ふことが出來る。青色は眼に不思議な作用がある。そして之は殆んど口で謂ひ得ない。此色は色よりも「エネルギー」であるが陰氣で尤も純粋なるものは少しも刺戟作用がない。是れを觀れば刺戟と安靜との矛盾した樣な所がある。青色は寒冷の感を抱かしめ純青色の毛氈を敷きつめた室は、幾分か

廣く見えるが空虛に、冷たい感がある。又靑色硝子は物體に悲哀の光を與ふもので、同じ靑の中でも赤靑となれば赤の色が多少混れる故に、元來自動的であるに拘らず、多少受動的となり、その刺戟も赤黃色とは全く異り人に快活感を與へるよりも寧ろ不安に陷らしむ。其不安の狀は其色の濃淡によるものにして、全く純粹の靑赤色に染めた毛氈は一種の不快感に襲はれることは明である。赤色は眞面目威嚴の印象を與へ、同時に仁愛及び溫雅の感情も含まれり。前の者には光が暗く濃厚なる時に、後の場合は明るく、薄き時に良く感じ得らるのである。この色に包まれば常に莊重莊嚴の感があり。紫色硝子は恐怖の光を投ずる、斯くして世界最後の審判日には色調が天と地との間に彷彿するであらう。吾人の眼は綠色に逢へば滿足を感ず。若し綠色の母色である黃色及び靑色が共に不足なく平等に混じてゐたならば此の混色に對する眼及び氣分は全く單色に對すると同樣である事は何人も異論のない所である。是が居室の毛氈に綠色を選ぶ所以である。

蟲が知らすといふ事

醫學士　森田正馬

ふと目を醒したる老母は、十二年來行衞知れずして、ふと歸り來りたる昨夜の伜の在らざるに氣付き、手さぐりにあたりたる枕元の五十兩の財布を取り上げて「昨夜の話の模樣より考ふれば、正しく伜は他ながら今生の別れ、母に暇乞のため來れるならん、何はともあれ……」と驅け出し、息もたえ〴〵村はづれ迄來たる時、はたと行きあひたる博徒の三太、老母の片手に重さうなる財布を見て、ツイ出會ひ頭の出來心に「婆さん、すまないが暫らくそれを貸して呉れまいか……いやさ、かうなつちや、じたば

たしても……」と三太の一しめに老母はそのまゝ息絶えたり。

話かはりて、こゝにまむしの平吉は母に忍びて家を出で、我身の果や老母の事など思ひ煩ひつつ進まぬ足をはげましつゝ辨天の森を越ゆる頃、折しもひゞく鐘の音に蟲が知らすか何とやら、にはかに胸かきさはぎ、心亂れ足もなえたるが如くなり。「今頃は母が目さめて不孝の我を怨み、何か變事の起れる」が如く思はれてならず「まだ夜も明け放れねば、人の見る目もなからん、他ながらも今一度母の有樣一目見て引きかへすとも遲からじと、急ぎ足に歸りかゝる村はづれ、はたとつまづきたるものに、よく見ればこはこれ老母の死骸……」

斯る事を俗に「蟲が知らす」といふのであります。

私が或時家に歸る途中で、ふと「今日あの男が私の家に來たのであるまいか」と思ひ、家に歸つて見ると、果して其男が來て居つた、此男は、私が久しく病院で治療した不良少年で、その後二年許りも消息を知らなかつたものでありました。

又或時、電車より降る際ふと「今日我子が大怪我をしたのではあるまいか」といふやうな感じがして歸つて來ると、果して子供が發熱して苦悶して居つたのであります。斯樣な事は私の經驗でも屢々ある事ですが、此等をしも蟲が知らすといふのでありませうか。

私が嘗て「夢知らせ」といふ事に就て或人の迷信を打破するに統計といふことより數年の努力を費したことがありました。例へば齒の拔けた夢は近親に不幸ある兆で、蛇の夢は他より金錢の入るの兆であると云ふ如き事ですが、私は、其人に常にその夢に注意し、毎朝必ず其夢を思ひ出し、忘れぬ内に記錄させました所が、遂にその迷信の適中するものは百中一にも足らぬことが解るやうになりました。然るに此夢が常にあたる如く思はるゝは何故であるかと云ふに、凡そ夢は常に甚だ忘れ易いもので、朝起き出

る時に思ひ出すものは、昨夜の夢の僅に一小部分で其日の午後にもなれば殆んど全部を忘れ盡すのが常であります。かく忘れ易きものであるのに、偶然ある事件の起つた時、特に迷信あるものは、これに伴ふ強き感情を以て昨夜の夢を、而かもその事實を修飾附加して追想し、殆んど故意に事件と夢とを符合せしむるが爲めで、これは感情と追想の錯誤によりて起る所の迷信に外ならぬのであります。

蟲が知らすといふ事も、私の經驗によりますと、例へば家に歸る途すがら半知半識の間に歸宅後の仕事の豫定などをする、途中で車上の人を見る、そこでふと家に誰か來たのではあるまいかと思ふ、又誰か邪魔になる人が來はしないかと思ふ、連想ははしなくも平常不快に思ふ人の上に及ぶ、こゝに初めて感情は昂まり來つて、我が最もいまはしく思ふ一定の誰某が將に我家に來れるを直覺せるが如く感じ、而して家に歸つて見れば固より其人は來はしない、これと同時に、前に直覺せるが如く感じた事も直ちに念頭を去り忘れて顧みることはない、又歸途電車を降りる際に、ふとつまづいて心はら〱とする、前を見ると菓子屋がある、何か我子に土産もがなと思ふ、子供は家で先日買ふてやつた自轉車に乘つて今日も遊んで居るだらうと思ふ、三年前に我が妹の子が車に衝あたつて危く怪我せんとした時の光景がありありと思ひ出されて我が胸の底にひゞく、こゝに至りて我が連想は、若しや我子が怪我でもしたならばと思ひ、にはかに胸騷ぎするを覺え、蟲が知らすか恰も我子の大怪我をしたのを直覺せるが如く感ずる、而して家に歸れば固より何の事もない、これと同時に、今しも直覺せる事を馬鹿らしとも何とも思はずして、これを放棄し、全く忘れて顧みない。かく我家に誰某の來るを直覺し、我子の事變に蟲の知らせを感ずと云ふやうな事は、その適中することは百に一つもない、而かも稀にその當るのは、極めて僅かに關係ありといふ迄のことで、例へば不快の人を思ふて、思ひがけなき良き人來り、子の怪我を

思ひて、下痢したと云ふ如き類である。噂をすれば影といふ事も總て此類で、只その人の來る時は、前後の事情より其人の事の連想さるゝ事情の多きためその可能性は前例よりも遇中率が多いわけであります。

此の如く、蟲が知らして、その遇中するが如く思はれるのは、前の夢の例に於けるが如く、こゝに或事件の起るときに強い感情と之に伴ふ牽強附會の追想とによるのであります。又突然胸打ちさはぎ或事變を直覺するが如きも、或る當然の機會、外界の刺戟本人の心の狀態等より連想は連想を導きて或る感動に値すべき考慮に達したる時、初めて強くこれを意識の上に明確に感ずるに至りたるものでありまして、從つてその初めの機會や連想は全くこれを氣付かぬが爲めであります。

人旅にありて家の妻子を思ひ、又同胞の他鄉に病むありて之を憂ふる時、偶々子病み同胞死すとの報を得て、こゝに初めてその感動を中心として意識發展し、昨日感せし事、昨夜夢みし事をこれと關聯して追想し、こゝに初めて蟲が知らしたり、精神感通せりと神祕的、不可思議的に解釋するのは、これ人の凡情であります。

元來「蟲が知らす」といふは、多く神祕說を唱ふる者若くは迷信者流の信ずる精神感通により他の人若くは宇宙の心靈と自己の精神との感應傳達するを空想せるものでありまして、縱令これありとするも、吾人は物を感ずるに吾人の感覺器若くは無線電信等に於けるが如き適當なる設備と一定の約束とあるを要するものであつて、若しその設備と約束となからんには、如何に無線電信が時々刻々に感應したりとてこれが地上に無量無數に設備され、時々刻々にその位置を變化せりとすれば、如何にして彼より是に一定限局せる電流の傳達を認むることが出來ませうか、又吾人の精神活動は如何に微妙幽玄なりとも、億兆無量無盡藏の心靈活動が互に錯綜するとすれば、その孰れに衝突し、孰れに反應し、果してその

一より一に一定不變の感應ありと認識することが出來ませうか。

而し私の言ふた所は、只これ以上を知らざる私の思想の範圍内に止まるのみで、實はこの精神感通のありやなしやを知らずといふのが最も正しい言であらうが、只世に「蟲が知らせる」といふ事は、事實に於て私が前に説明したる如き淺薄なる迷信的の事のみ多く、吾人の問題となり得べき事實は極めて稀有の事に過ぎないのであります。

妊娠時の攝生法

醫學士　山崎清

妊娠は婦人に對し一大變化には相違ないけれども、而し一種の病氣では無くして生理的作用なるを以て特別の藥を服用致す必要はありません、唯平常よりも充分攝生法を嚴守せない時には些細な事より病氣を惹起し、或は妊娠中絶を招き甚しきは恐る可き大害をも起す故に若し多少なりとも異常有る時には早く醫師か産婆の診察を受ける事は大切です、以前にお産をした方即ち經産婦は前の妊娠時に別條無かつたと云ふて二度目又は三度目に於て粗末になし攝生法を等閑に附し爲めに豫想致し難い結果を招く事があります、故に五ケ月後よりは月に一度位宛醫師か産婆に診て貰ふ樣に致せば安全であります。

前にも述べました通り妊娠は婦人の生理的現象であるを以て急に從來の習慣を破る必要はありません、寧ろ規則正しき生活を爲す事に勤むることこそ肝要であります。

一、運動

妊娠中遊惰安逸を貪り終日室内に蟄居し、冬は炬燵又は行火に入り、少しも身體を働かさぬ爲めに過熟兒と申しまして胎兒が豫定日頃に分娩せず、母體内にて餘り大きくなり過ぎて却てお産が重くなる事があります。

然れども平常より餘計に働くなども謹むべき事であります、卽ち重い物を持つたり、高い所に手を擧げたり、險なる峻しき坂を上り、凸凹の道を歩み、砂礫の上に車を走らせ、馬乘り、舞蹈を演じ、長途の汽車、汽船、旅行等の爲めに流産、早産を惹起する事があります、又た梯子段の昇降に際し蹈みはずしてお産を早く致します、殊に妊娠五ヶ月以後に於て身體の重みが變るを以て浴場に於て滑り又は溝を蹈みはずして流産、早産の原因となることはよく遭遇致す所であります、故に此等の點は篤くと注意致すこそ肝要であります。

都會に於ては電車と人力車と何れが有害なるかは一寸難問題でありますけれども道路惡く坂多き土地を俥にて乘り廻すは身體動搖烈しき故に危險であります、夫れよりは比較的動搖の少き電車にありては其昇降に際し充分注意を致せば先づ近距離は差支ありません。

次に旅行は妊娠中大丈夫だと申す時期はありませんけれども、先づ五ヶ月以後にて四五時間位の距離の汽車旅行は大した害はありません。

二、起臥の時間

起臥の時間を正しく致す事も大切なる攝生法の一つであります、殊に毎朝早起の習慣をつけるのは結構なことで早起して戸外に出で、新鮮なる空氣中を散歩し精神の爽快を計るのであります、而し早起きと申しても決して睡眠時間の不足を意味するのでは無くして、尠くとも七八時間位の充分なる安眠は必要であります、卽ち早く寢ね早く起きると云ふ風にすればよいのであります。

寢室は寒冷又は温暖に過ぎるのは決して宜敷ありません、午睡も惡い習慣であります、其他總て起居動作に秩序のあることが肝要であります。

三、精神の安靜

妊婦の精神を安靜に保たしむる事は最も必要なことでありますから精神に刺戟を與へ感動を興奮せしむる原因は總て避ける事は大切であります。婦人は元

來男子に比較して感動し安い性質を有して居りますのに妊娠に因りて一層感情が高まります、殊に初產婦と申しまして初めてお產をなさる方抔は出產に對する恐怖の念の爲めに無暗に心配することがあります、而し此れに對しては母親なりお產に經驗のある婦人から能く云ひ聞かせて安心させるが宜しいのであります、元來妊娠、分娩は婦人の大役たるには相違ありませんけれども、世人の善く申します通り、安ずるより生むが安いと申します如く、先づ攝生法を嚴守致せば左樣に心配せずともよい筈であります、故に喜怒哀樂總べて感情を劇しく動かす稗史、小說、講談、演劇、寄席其他多人數の集合致す場所に出席致す事も宜しくありませんから總て之を避け其良人及び家庭全體が注意して妊婦の精神の安靜を計るのがよいのであります。

四、居室及び寢室

居室及び寢室は新鮮なる空氣の流通をよくして、且つ晝間充分太陽光線の放射を受ける部屋を選ぶ事は大切であります、此新鮮なる空氣及び日光は妊婦に限らず人類の衞生上缺く可らざる要件でありますが殊に妊婦に向ては一層必要であります、薄暗き室や濕氣を帶びたる部屋は禁物で、日光に依りて明るい乾燥した室がよいのであります、家庭に依りましては寢室に態々薄暗い、晝間除り人の入らぬ濕めぽい室を用ふる方がありますが此れは誤りたる考へであります、其例の甚だしいのは田舍等にては納戸と稱し一家の內で一番日光の射さない、薄暗い、掃除も行き屆いてない部屋を寢室又は產室等に用ふるのを見る事がありますが此れは衞生上から申しても最も宜しからざる事であります。

五、衣服

衣服本來の目的は寒暑を防ぎまして體溫を一定度に保たしむる事にありますから、美服なるは勿論必要條件ではありません、清潔にして汚染の無いのが宜敷く、衣服は緩裕に仕立決して窮屈で無い事を要します、細紐等を以て無暗に腹部を緊縛し呼吸及び血

行を妨げ母體の健康を害し、胎兒の發育を阻碍する事がありますから注意致す可き事であります、殊に妊娠五ヶ月後に於て左樣であります。

腹、腰、足部は常に溫かに保ち、肌著には「フランネル」或は綿布の繻袢を用ひ時々洗濯し清潔にして置くのが肝要であります。

六、腹帶

我國にて妊娠に用ふる腹帶の事を昔からいはた帶と稱し、五月帶或は岩田帶と書きまして古くからの習慣となつて居ります、此腹帶の起源は昔、神功皇后が三韓御征伐に御出で遊されし際御身只ならざりしを以て腹帶を御締めになられて鎧の引合を合せ、三韓を御征伐なされ、御凱陣の後に目出度皇子を御安產なされたと申す事であります、爾來此吉例にあやかり度いとの念より妊娠五ヶ月に五月帶をされる事となりました、尙ほ犬は動物の中でお產が極く輕いと申す事で戌の日を選びまして、卽ち妊娠五ヶ月の戌の日に腹帶を締める樣になりました、いはた帶の起源は右の樣な次第で安產を祈願する一種の祝福の儀に過ぎませんから、此いはた帶をお產の爲めに必要缺く可らざるものゝやうに考へて、强く締めなければ胎兒が發育し過ぎて產道を通らないなどゝ申すのは理由の無い事であります、而し我國古來の習慣を全然捨つる必要もありませんと思はれます、昔狹き帶を緊く締めた爲めに胃腸其他內臓の機能を妨害し子宮及び胎兒の發育に不平等を招きまして、從て產後に胎盤殘留及び弛緩性出血或は流產、早產の原因となりました。例は少し異ふが病氣の爲めに起る疼痛を醫師が鎭靜するに用ゐます藥劑の多くは劇藥或は毒藥であります、而して其使用量適當なればこそ鎭痛劑の效を奏しますが、若し其量多きに失すれば毒藥として人體に有害なる作用をなします、此れに反して其量少き時には何等の反應をも呈しません、此れと同樣に腹帶の方法及び種類に注意致せば害は變じて利益となるのであります、卽ち木綿巾を其儘廣く平等に七八尺輕くぐる〳〵巻きに致すか、

或は「フラチル」を用ふるのであります、何れに致しても餘り強く締めずゆるく卷くことが大切です、斯く致す時には腹帶に依りて腹を溫め胎兒を整位置に保ち、懸垂腹と稱しまして腹部が著しく前下の方に膨れ下るのを防ぎ、腹部に受ける外傷を防ぎ、且つ妊婦の働作に便利を與へる爲めにもなります、尤も胎兒位置矯正後の腹帶法は醫師或は產婆の手に依てなさるゝのは申す迄も無い事であります。

七、身體の清潔

いくら著物を清潔にし、家屋の掃除が行き屆きましても肝心の身體が不潔では何の役にも立ちません、身體の不潔の爲め著物は汚れ易いのは當然の事でありますから先づ每日一回位お湯に入りて全身をよく洗はなければなりません、此入浴は日本人の美風でありまして衛生上から申しましても善いのであります、即ち身體を清潔に致す許りでは無く、身體の新陳代謝を旺盛にし、又體溫を保留しまして胎兒を溫める等の效能があります、沐浴の溫度は大抵攝氏三十九度半乃至四十度位が適當であります、餘り熱いのも冷いのもよくありません、熱のある時又は風邪の時には無理に入浴するのはよくありません、其良否は病氣の容態に依りまして色々ですから醫師に聞いて見る方が安全であります。

八、陰部の清潔

陰部は身體中最も汚れ易い部分でありますから、特に清潔法を講ずる必要があります故に一層注意せなければなりません、妊娠中は生理的に膣分泌物が增加しまして流れ出でる婦人が多い樣です、故に少しでも子宮に故障のある方であると其分泌物の爲めに陰門、肛門、內股に痒疹を惹起し、又は糜爛を生ずる許りで無く、其分泌物の性質が惡い時にはお產の時に小兒に眼に入り、恐しい眼病を起し、或は產後母體を苦しめる事がありますから、分泌物の餘り多量の方は醫師の診察を受けて置く必要があります、陰部清潔法としては沐浴の時丁寧に洗ふ外に一日一乃至二回位「イルリガートル」と申す器械に五十倍硼

酸水を微溫として入れ、二三尺位の高さに掛けて洗ふのです、而し此注意致す可き事は嘴管を餘り深く入れ無い事と後で自分の手を善く洗ふ事です。

九、履物

履物に關しては無頓着なる方が多い様でありますが此れが又た中々大切な事であります、履物の惡るかつた爲めに蹶いたり、倒れたり、臀餅ついたりして流產、早產することがあります。

妊婦の履物として最も適當なのは草履であります、高い下駄、重い下駄は禁物です、若し雨天で高い下駄の必要ある時には齒の缺てゐるもの、歪んでるのは止めて或る可く輕いのを選び殊に臨月にては重き物を持たず、徐々に歩む様にせなければなりません。

十、食物

妊娠に對し直ちに食物を改めて滋養分に富める物のみを食する必要はありません、平素の習慣に従ひまして其好む物で差支ありません、只だ刺戟性物、脂肪多き物、瓦斯の出來安い物、神經を刺戟する物、尿量を增す物、其他不消化物等を除きて成る可く滋養となりて消化し易い物がよいのであります、胎兒の發育につれて自然多く食物を攝取する必要はありますが、一度に澤山取らずに數囘に少量宛取る様に致すとよろしい、又寢る前に食事或は菓子を食するのは惡い事です。

我國人の常食である米飯、麥飯は結構であります、然し餘り硬いのは宜敷ありませんから、少しく軟らかに焚いてよく咀嚼するのは申す迄もありません事です、食麵麭、饂飩も宜しいが、餅類、赤飯、鮨、團子、蕎麥等は不消化ですから成る可く喰べない方がよい。

肉類中で我國人が多く常に副食物として居るのは魚肉でありますが、先づ食して差支へないものは鯛、鯉、鮒、比目魚、鱚、鱸、鯵、魴鮄等の淡白な魚であります。

此れに反して脂肪に富んだ鰻、鰮、鮪、秋刀魚及び

消化悪き章魚、烏賊、鰕、蟹、鯣、貝類（此中でも蠣は軟いから宜敷）、干物、鹽漬、鑵詰等は食せない方が宜敷い。

獸肉にては兎、犢牛、羊肉、鳥類では鷄肉、鳩肉等は結構ですが雁、鴨肉、豚肉、鹽漬肉等は脂肪が多く且つ不消化とで宜敷ありません。

野菜類の中で菠薐草、鶯菜、京菜の如き葉類、百合、人參、慈姑、山芋の如き纖維少き物は、よく煮て食せば差支ありません、芋類、牛蒡、大根、南瓜、豆類の如き瓦斯の出來るもの、冬瓜、西瓜の如き尿量を増すもの、芹、獨活、筍、茄子、香の物、菜漬、澤庵の様な不消化物は宜敷ありません。

海草類、昆布、海苔、茸類は不消化物故によくありません。

香辛料、刺戟物、胡椒、芥子、蕃椒、山椒、生姜、山葵、葱等の如き刺戟物は不可であります。

果物、林檎、梨子、蜜柑、葡萄、覆盆子、無花果の類は能く熟した新鮮な物は少量位宜敷く、殊に便祕する妊婦にはよいが、梅、柚子、青蜜柑の如き強き酸味を有するものは不可であります。

菓子類は餘り糖分の強い物は消化器を害しますからよくありません、而し輕い菓子、「ビスケット」、鹽煎餅、「カルヽス」煎餅等は差支ありません。

飲料は淸水、白湯、麥湯を適度に飲むのは結構でありますが、茶、咖啡類は薄ければ差支ないが濃いのは不可ません、飲料は總じて熱過ぎるもの、冷た過ぎるものは不可ません、酒類中「ブランデー」、燒酎、泡盛、「ウヰスキー」、安價な葡萄酒等はよくありません、平素より酒を飲み付けた婦人は急に廢める時には消化器を害する故に次第に量を減じて廢める方が宜敷い、牛乳及び「ソップ」は結構です、殊に牛乳は一度煮沸をする必要があります。

以上述べましたのは極く一般的に申しましたのでありまして其人の體質及び生活狀態に依りまして一概に申されませんから其邊は多少考へて取捨する必要はあります、殊に食物は料理法が極く大切でありま

して同じ物でも料理の仕方に依りまして色々になりますから北邊は特に注意致す必要があります。

十一、乳房

乳房は分娩後哺乳致す上に於て大切でありますから妊娠中より注意して清潔に保護する事が大切であります、乳嘴の凹んでゐるのは時々之を牽き延ばして後來乳兒の乳を吸ひ安からしめ、又た皮膚の軟かな方は産前一ヶ月頃より毎日「アルコール」を脱脂綿に付けて拭ふ時には硬くなり、之れと反對に皮膚の硬きに失する時には油を塗り度々石鹸で洗へばよい。

今迄哺乳して居た婦人が再び妊娠せし事が分れば直ちに哺乳を廢せねばなりません。

十二、便秘

妊婦は兎角便秘に傾き易い爲めに痔を起す事が多い故に毎日便通を付ける事は大切であります、其方法は無暗に賣藥に依る下劑を服用して流産を起す危險が無いとも限りませんから醫師又は産婆に相談致す方が安全であります。

寒・凍死

高峰博

文展見物に來た二人の兵士が、あの評判の豫譲の前に立つて、「此のおつかない顏付ぢやア馬の驚くのも無理はない」だつて、君がこれによく似てゐるぜ」と話し合つてゐたさうで、つまり彼等は此の豫譲が身體に漆を塗つて癩病患者と姿を變じ、かねて怨を懷く君國の仇、趙襄子をば待ち伏せて、あはや今しも一擊の下に年來の讎を報せんと現れ出でたる一刹那の光景とは知らないのであります。

かの齊の管仲が倉廩充ちて榮辱を知り衣食足りて禮節を知ると申しましたのは寔に至言ではありますが、私は亦、素養有りて趣味生じ知識に由りて自信生ずと申し度いので、いくら榮辱や禮節を知つたとて、更に其の奥に素養と知識が無くば、成金が矢鱈に骨董趣味を見せびらかすのと同樣で、所詮兵士の

外評と同じく甚内容の空虚なものになつてしまいます。——私も亦うつかり餘計な事を言ひ過ぎましたが、實は新聞で今年の初霜が去年より十八日早いと云ふ事を讀みましたから、それからの思ひ付きでこゝに少々「さむさの」事「凍死」の事を書いて見やうとて、筆執つたのであります。未明の冷水浴後、今朝などは隨分冷かなれど、かじけた手を震はせ乍ら、貧弱な頭から何かふるひ出して見せう。皆様もお風を召さぬ様どうぞお大事に遊ばせ——日露戰爭の時、我が軍が滿洲の氷野に露營中、凍傷の患者や凍死者が尠からず續出しましたが、その凍死者を見るに大抵みな酒を飲んで外出したものでありました。そこで此の事實が追々隊長共も自ら實驗して、以後は飲酒して外氣に觸れることを嚴禁致しますさ、爲に大に凍死者を減少せしむるを得たさうであります。醫學上から見れば、これは當然の事で、酒や其の他、何でも「アルコール」を含有する飲料は、中毒作用を呈するからであります。即、「アルコール」は血管運動神經の中樞を侵し、爲に其の機能が減弱して血管が膨脹するに隨つて、血液が多く其處へ流れてくる。これは殊に顔面や、皮膚へ來てゐる血管に於いて然り、酒飲みの顔の赤くなるのは此の理に因るのであります。中毒作用が更に劇しくなれば、血管運動神經の中樞は麻痺して、血液が過分に身體表面に集るものですから、體溫は外氣に取られて、ドシドシ發散する。且又、「アルコール」は腦髓中の體溫調節中樞も麻痺させますから、體溫が體外へ取られて居つても、それを防ぎ止め、又は體溫發生を促して之を取締ることが出來ない。かくして身體が寒風中に曝されて居るならば、忽、凍死の危險に陥るのであります。世間ではお酒を飲むさ、からだが暖まるやうに考へてゐますが、實は上記の如く血液が皮膚の方へ多く流れて、其の爲、肌が温暖に感ずるだけで、其の間に熱は益々減つて行くだけであります。寒中外出の時、元氣をつける爲だなどと言つて一杯グッとひつかける人がありますが、あれは大間違

ひで、あとは却て一層寒い。そしてたとひ凍死と迄はならずとも、得て風邪をひき易い。家庭の人も注意せねばなりませぬ。

生物のからだは都合よく出來てゐるもので、若し外界が寒ければ皮膚血管は收縮して體內溫度の放散を寡くし、却つて內臟の方へ多く血液を送る樣にし、又自然に乃至故意に筋肉を運動をさせたり又は食物を攝取して體溫を發生させる。ループネル(Rubner)といふ人の動物に於ける實驗によれば、筋肉運動食餌榮養等をさせなくても、寒い時はやはり幾分の體溫發生が增すと云ふ事であります。これは體溫調節中樞の機能でありますが、人間は其の上に衣服を重ね、煖爐を設けて寒氣を防禦致します。然るに酒飲みは如何でせうか。「アルコール」中毒を利用して體內へ貯ふべき溫熱を態々體外へ放出せしめ、おまけに結構な體溫調節機を麻痺させる。これで元氣がついたとて外へ飛び出すなどゝは、はや無鐵砲至極でこれらが所謂「狂ひ水」の效能でありませう。ラインケ(Reincke)といふ人の報告を見ましても、三十四歲の男子、一夜攝氏一度の戶外に於いて凍死に陷つた。其の直腸內の溫度は攝氏二十四度でありました。健康人の體溫は腋の下では三十六度五六分以上三十七度前後で、直腸內では、これよりも〇・六乃至一度程高いのが普通ですから、まづ三十七八度と思へばよろしい。此の男は泥醉者で、幸ひ恢復しました。次に四十歲の男子、これも酒に醉ふて居りましたが外氣が攝氏十度卽華氏の約五十度で、私が唯今(十一月九日早朝)之を書いてゐる時の溫度と大した差はありませぬのに、やはり危險に瀕した。其直腸內體溫は二十八度。これも恢復しました。それからも一つ、他の凍死者は直腸溫度が三十度を下らないのに、蘇生しませぬでした。これで見れば體溫下降の度と凍死的危險の度とは比例せぬやうでありますが、たゞ一つお酒を飲んでゐる者は大に危險なりとの一事は動きませぬ。

たとひ外氣が酷寒でも相當に身體を保護し、體溫の

保存に努むれば隨分忍び得るものでかの北極探檢で有名なナンセン(Nansen)氏等の報告によりても、外に劇しき風も吹かず、內に充分の手當をして居れば攝氏の零下四十五度乃至零下四十九度位でも、さして皮膚に苦しき感覺を起さずして堪え得ると申します。尤、これは習慣性も一大原因であります。

偖、凍死の始まるのは如何なる症狀を以てするかと云ふにまづ眠たくなるのであります。これは凍死者の經驗も其の通り、又動物で實驗しても左樣で、動物界に於いては自然と冬眠する動物が、此の現象を示して居ります。例へば冷血動物の蛇や蛙の類で、彼等は冬期中食物は攝取せず、身體を動さず、呼吸も心動も極度に減弱して、此の寒氣の麻醉的作用の爲に閉息蟄居して居ります。一朝外氣が暖くなるか人が其の筋肉を運動させて熱を與ふれば直に睡眠情態から蘇るのであります。溫血動物に於ける實驗としては、動物の胸廓を剖いて大動脈を外氣に曝しますと、血液は冷されて遂に冷氣の爲に麻醉にかゝります。人間に於いても同じ事で、外科や婦人科等で開腹手術を行ふ際、あまり廣く腹部の內臟を外氣に觸れしめて、時に有害な結果の生ずることは醫者の恐るゝ所で、手術室が常に年中蒸し暑い程に暖くしてあるのは其の爲であります。

上記の如く、凍死に際し眠くなるのは、血行が緩慢となり、內臟に鬱血を來し、隨つて酸化作用が減じますから、頭腦內の諸中樞も其の影響をうけて追々麻痺症狀を呈し來るので、人が名を呼んでも應答速ならず、瞳は開大して、其の反應も遲鈍となり呼吸脈搏共に緩徐となる。この際人間ならば直腸內溫度が二十度以上であると蘇生恢復の見込あるさうです。コーレマン(Colman)及びケンドウイック(Kendwick)等の試驗では兎は直腸內攝氏六度迄降溫しても、これを徐々に煖めてやると蘇ると申します。凍死者が睡眠情態から醒めると、次に頭痛を感じたり、譫語を云つたり、身體諸筋に麻痺があつたり、又血尿として小便に血が混じて出ます。これは

赤血球の崩潰した爲にて、尿の赤いのは血色素で染まつて居るのですから即、特に血色素尿と呼びます。此の事は凍死者を解剖しても確め得る所で即ち其の內臟の充血を出血を毎常實驗するのは、此の爲と思はれます。

それでは、凍死に陷つたものは、どう手當してよいか?。前に、直腸內六度まで體溫下降した兎でも、ぼつ〳〵と溫を與ふれば蘇生すると申しましたが、これが人間に對しても肝心な心得であります。凍死者は決して急に火熱に近けてはいけない。先づ、最初は雪などで身體を摩擦し、濡れ手拭で纏絡し、さて追々に溫度を高めて、水の中で四肢を摩擦し、攝氏十六度乃至十八度の全身浴を取らせ、其の溫度が三時後には三十度となるやうにし、其の頃に少々嗅入藥を試みたり、皮下注射を以て興奮を促し乃至人工呼吸も施す。かくて意識が戻るに至つて始めて溫い葡萄酒や興奮劑を與へ、身體を溫く纏包してやります。

要するに、人の凍死に就いて心得べきことは、豫防法としては「アルコール」性飲料は最も愼むべく治療法としては決して急に溫度を與ふ可からずといふ二個條であります。

育兒

疲勞に就て

ドクトル　三田谷　啓

こどもの發達の徑路

こどもの身體及び精神は定まつた徑路をとつて發達して行くものであります。身體の方から言ひますと身長や體重を見るとよくわかります。年々歳々少しづゝ增して遂に大人の身長、體重に達するのであります。精神もこれと同じく、例へば知識の方面では

初めは物の名を知り、それから效用を知り、更に進んでその造り方などを知つて行くのであります。即ち單簡なものから複雜なものを學んで行くのであります。こどもを育てるときには必ずこどもの發達に適當した方法を講ずるやうにせねばならぬのであります。若しこどもの發達に不適當の取扱をしますと子供はその爲めにいろ〳〵の害を受けるのであります。ところが世間では不適當なことを平氣で實行して居ることが可なり多くあります。これはこどもの身體と精神のことをよく知らぬからであります。

疲勞のこと

我等の身體は何かして居ると一定時間の後につかれます。疲勞と言ふはつまりつかれると云ふことであります。このつかれると云ふことに二種あります。一つは身體の一部分のつかれであります。例へば、一方の手で何か重いものを持つとか、筆を持つて永い間續けて仕事をするとその手がつかれて來る。それから又力の要る勞働などをすると全身がつかれる。これは全身の疲勞であります。

疲勞が起つて來ると、體力が減弱して參ります。なぜ體力が減弱するかと言ふに身體中の酸素が少くなる。それから血液中に排泄した不要の物質が堆積するからであります。それでありますから疲勞を恢復せんとすれば身體の中にある有毒の物質を排泄し、新に榮養分を充分攝取して身體內の狀態を適當に鹽梅せねばならぬのであります。若しこのつかれた狀態がだん〳〵進んで參りますと、生物は遂には死んでしまうのであります。

疲勞の發生

疲勞の起る原因は種々あります。一部分に起る疲勞は單獨の筋肉、又は神經の過劇運動等によつて起るのであります。全體の疲勞は、全身の作業が劇しくなると起るのでありますが、その他に睡眠不足、斷食、疾病、陰鬱の天候等も矢張りその原因になるのであります。疲勞の本體に就ては種々の議論があつて身體に一種の化學的毒素が發生して起るものださ

稱へる學者もあります。この論を主張するのはライヒヤルト氏で、この人は化學的疲勞物質を「ケノトキシーン」と命名しました。この說に對しては贊否種々ありて今日ではまだ確定して居りませぬ。兎も角疲勞が起ると身體に變化の起ることは前述の如くであります。

そこでこどもを取扱ふ人は疲勞の起らぬ程度を心懸けねばならぬ、若し疲勞が起つたらば、それを恢復するやうにせねばならぬ。

疲勞の恢復

疲勞が起ると、まづ疲勞の起つた原因を除き休憩をして居ると又元の通りの狀態になります。即ち恢復であります。我々の日々の生活は作業と休憩を交番に行つて居ります。日中は働き夜は眠る。この眠ると云ふことが休憩であつて、日中の勞れが夜中に恢復するのであります。故に作業と休憩とは生物が生活をして行く上に必要の條件であります。

前にも述べた如く疲勞が繼くと遂には生命を亡ふことになります、假令斯くの如く程度の强きものでなくとも、疲勞の狀態が繼くと身體及び精神の發育が害せられることになるのであります。即ち身體の方から言ふと食慾が少くなり、體力も減じ、消化も惡くなる。それから精神の方は注意力が減じ、意志の力が弱くなり、記憶は衰へると云ふやうなことになるのであります。

疲勞の度を測れ

疲勞の度を測るには學術上にはいろ〳〵六かしい方法がありますが、兒童を敎育する上に家庭で手ッ取り早い測り方をするには睡眠の狀態を見るのであります。こどもが運動したり、遊戲したりして疲勞して、夜眠ることが出來なくなると、既に運動や遊戲の過劇なることを考へねばならぬのであります。僅かにつかれた位ではこどもは夜よく眠ります。しかし疲勞が增して來るとよく眠ることが出來なくなるのであります。それであるから若しこどもが過劇に

事を行つて眠ることの出來ぬやうになつたら是非その事柄を止めさせねばなりませぬ。運動や遊戯丈けでなく、その他の精神的作業も同じことである。これには學課の復習とか言ふもの丈でなく娯樂例へば活動寫眞なども矢張り精神を疲勞する原因になるのであります。約言すると兒童を取扱ふ人々はこどもの負擔を過大にせぬやうに心懸けねばなりませぬ。

哺乳兒看護法

關守白藏

哺乳兒の健康狀態

哺乳兒の健康な徴候は次の様なものであります。肉付が良く、皮膚が紅く、すや〳〵と眠り、食慾が平等で、活潑に運動し、眼に光澤があつて活々して居る。屢々排尿し、その色は透明で臭が無い。大便は縮いて居つて、燒卵の様な黄色味を帶び、凝固まらず、粘らず、惡臭が無いものであります。檢温器は必ず備へて置かなければなりません。多少でも病氣の疑があれば、注意して檢温器を直腸内に插入して體温を測る、而して若し三十七度六分を超えるやうなれば醫師に診察してもらはなければなりません。

哺乳兒が健康狀態を保つて居るかどうかと云ふことを觀察するに最も良い方法は、規則正しく一週間目或は二週間目毎に續けて體重を測ることであります。千「グラム」位體重が減少しても、一見した所では左程目立たぬものであります。若し大腿の邊に皺が見えるやうになれば、これは既に久しく健康を損なつてゐることが分かります。

初生兒の體重は平均男の子は三千四十「グラム」即ち七百六十匁、女の子は二千八百七十「グラム」即ち七百十匁位であります。生れて四日目までは體重は多少減じまして十日目に至つて再び初めの體重に復します。小兒は生後五箇月の終りに至るまでは毎日十五「グラム」乃至二十五「グラム」位づゝ體重を増し、

この時期の間に、生れた時の二倍の目方になり、滿一箇年の終りには、生れた時の三倍程の體重となります。この體重の増加かたが不充分な場合には矢張醫師の診察を受ける必要があります。尤も早産兒に於きましては、この規則として擧げた體重を當はめることの出來ないのは勿論でありますが、併し辛やく千五六百「グラム」位しかないやうな早産兒も、非常に注意して適當に溫を保たせ、母乳で育てますと往々育つて行くことがあります。

母親の産褥熱

母親が産褥熱を起した場合には、小兒を離さなければなりません。且つ母親に就いて居る看護婦は、成るべく小兒に湯を使はせたり、臍帶や襁褓などに手を著けないやうに注意し度い。若し止むを得ず一人の看護婦が母親も小兒も同時に取扱ふ場合には、母親の敷物や身體に觸れた後には、必ず嚴重に手を洗ひ且つ消毒した上でなければ小兒を取扱つてはなりません。うつかりすると小兒の臍炎を起し或は血液中毒などを起す虞があるからであります。若し斯樣な病狀を發した時には醫師を招くべきこと勿論でありますが、この時には健康の時と同じ樣に軟膏をつけて臍帶に繃帶をすることは禁物で、二%の醋酸礬土液を以て罨法するのが普通であります。

濕爛

初生兒には皮膚の皺襞を成す處に濕爛を生じ易いものでありまして、殊によく肥太てゐる小兒に於きましては股、尻、腋窩、頸などに濕爛を生じて困るものでありますが。充分小兒の淸潔に注意し、屢々襁褓を交換へ湯を使はせるときにも氣をつけてよく拭き乾すやうにすれば、大抵これを防ぎ又除くことが出來るものであります。併しそれでも尙は不充分な場合には、襁褓をとりかへる每に、充分に洗つて乾かした後、その紅くなつて居る處に綿で持て石松子或は亞鉛華澱粉を撒布してやります。これは藥店で賣つて居ります。或は醫師の處方による軟膏を塗らなければなりません。

便秘

母乳で育つて居る小兒が便秘して困る場合には、よく熟した密柑の汁又は林檎をおろして絞つた汁を少しづゝ與へる、或は「マルツエキス」又は水飴などを與へてうまく通じのつくこともあります。牛乳で育てゝ居る小兒ならば母乳か乳母の乳にすれば大抵順當に通ずるものであります。斯樣な方法で效がなければ石鹼坐藥或は冷水の灌腸を試みる、それでも效がなければ「リスリン」の灌腸を行ひます。下劑は種々のものを用ひますが、これは樣々の危險や弊害を伴ひますから全く醫師の處方に依らなければなりません。

小兒の齒

小兒は齒の生える每に何か多少身體に故障の現はれることが多いものであります。それは大抵何となく不安の狀態になつて、折々譯もなく叫び出したりする、又眠りが惡くなり、屢々哺乳を中絕し、頻りに手を口の内に入れ或は指や齒齦を強く嚙み、涎を多く出し、頰の一部分が紅くなり、顏に濕疹のやうなものが出來、既にあつたものは一層甚くなるものであります。併し齒が出て了へば是等の種々の症狀は忽ち消え去つて、又次の齒の生えるときに新たに起るものであります。併し又可なり重い障碍も現はれることがありまして、これは何時も同じ器官、殊に過敏な器官が、前に述べた輕い障碍の時と同じやうに侵される、それは主として腸、呼吸器及び神經系統の三つであります。

（一）腸の障碍は何な風に起るかと申しますと、これまでは消化の具合も良く何事も無く育つて來た小兒が他に何の原因も無いのに、急に或は漸次下痢を起し、その他の腸加答兒の症狀を起して來るのであります。併し稀には反つて便秘を來し、便が硬くなりそれが分解して惡臭を放つことがあります。斯樣な小兒は、その便が久しく腸の内に滯ほる爲に容易に痙攣を起します、併しこれは灌腸を施すか何うかして便通さへつければ直ぐ止むものであります。斯樣

な腸加答兒の狀態の時には是非母の乳でなければなりませんが、止むを得ず人工榮養を續けなければならぬやうな場合には、成るべく牛乳を少くして穀粉煎汁のやうなものを多く混ぜなければなりません、併し大抵醫師の診察治療に依て一般の腸加答兒の手當をしなければなりませんから榮養法の事も勿論醫師に相談すべきであります。所が斯樣な下痢は種々の療法を試みてもなか／＼治癒らず、齒が出て了へば忘れたやうに止むで了ふことが多いものであります。

(二)呼吸器の方も齒の生える時分には、とかく侵され易いもので、鼻加答兒位の狀態の時もありますが往々氣管枝肺炎といふやうな重態に至ることもあります。氣管に加答兒が起れば小兒は咳嗽をしますから分かりますが、この時には湯を使はせたり、襁褓を交換へたりする際に新たに感冒をひかせないやうに特に注意しなければなりません。寒い季節であれば斯樣な狀態の時は、決して小兒を外に連れ出してはなりません。且つこの場合に種々の素人療治を試みて家庭藥などを用うることは禁物であります。斯樣な事をすれば必ず病狀を惡くする、少くとも小兒の胃を惡くすること必定であります。但し胸に油を塗つて綿を貼たり、或は濕性の溫罨法を施したりすることだけは差支ありません。其他の事、特に熱が出ましたならば、直ちに醫師の診察治療を要します。

(三)神經系統の症狀と云ふのは、所謂輕い刺戟症狀でありまして、小兒は物音や何かに對して驚き易くなり、手を以て無暗に物を掻き廻したり、頭を擦りつけたり、妙に笑ふやうに顏を歪めたりする、又變な目つきをして茫然物を凝視たりするものであります。一層腦の刺戟が強くなりますと、小兒は電氣でもかけられたやうに身を縮めて身體が硬くなり、眼は上の方を見て、唇が紫色になつて喰ひしめます。それから二三分すると全身の筋肉に痙攣が起つて所謂間代性の痙攣が始まります。斯樣な場合には勿論

直ちに醫師を招かねばなりませんが、先づ二十五度位の微温浴に入れて背中に冷水を灌ぎ、充分通じのあるまで灌腸を施し、頭を冷してやるのは即坐の手當として適當な處置であります。斯樣な症狀は家族や人を驚かすものでありますが、大抵別段の害を殘すこともなく經過するものであります。併し時としてはこれから、腦膜炎を起し、多少精神の障碍を殘し或は遂に死亡するやうなこともあります。

斯の如く小兒は齒の生える際に種々の病狀を呈することがある。これは實際甚だ屢々見受ける事でありますけれども、併し稍々成長した小兒の病氣を悉く齒が生える爲めに起るものゝやうに考へるのは大間違でありまして、他の病氣でも斯樣な症狀を發することは少なくない、或一派の人は、齒が生える爲に右のやうな症狀が起るのではない、他に原因があるのであるけれども、恰も齒の生える時に其等の病氣が起るのであると唱へてある人々もある位でありますから、單に齒の生える爲めの症狀として平氣で居るわけには參りません、矢張一應小兒科醫の診察を受ける必要があります。

（以下次號）

家庭衞生

非衞生的の大掃除

莊司秋次郎

東京市では近年春秋二回の大掃除を強制的に勵行して居ります。掃除と云ふ事は元來衞生的の事でありますが、その方法如何に依ては、これ程非衞生的の事があらうかと思ふ程不都合極まつたものとなります。この大掃除の目的は勿論衞生の爲に大掃除を強制するのであらうと信じますが、自分の住居の掃除を強制されなければならぬ程非衞生的の生活に甘んじて居る人民の事とて、その掃除振りの無法な事は

唯々呆れるの外はありません。これを又監督し勵行するやうに努めらるゝ警官方の衛生思想が甚だ怪しいものであります。斯くて東京市は毎年二回づゝ家業を休むで大々野蠻的非衛生的の大掃除を行ひつゝあるのであります。もう少し衛生と云ふ事の意味が了れば斯樣な不樣な事は無くなるだらうと思ふのでありますが、何とかして廢めて欲しいものであります。試みに昨今大掃除の行はれて居る町を通りますならば、往來に家具を出し、盛に疊を敲きますのでその塵埃は濛々として窒息しさうになります。少しく風立つた時などは到底眼も鼻も開けたものでありません。而してこの疊なるものは、元來非衛生極まつた塵埃の沈澱池の樣なものでありますが、それも現に種々の病人が起臥して居る疊を、消毒も何もあつたものでありません、そのまゝ街上に擔ぎ出してろくに日光にも當てない中にバタ／＼と打くのであります。この無限の塵埃の中には種々の病原菌が含まれて居りまして、特に結核菌の如き呼吸器から傳染して病氣を起すものに至つては、これ程都合の好い傳播の機會はないのであります。これを考へますならば、多少公德心のある者は斯樣な非衛生的且つ不道德な事は出來ない筈であります。

私は目下行はれる大掃除に就ては何處から何處まで不都合な惡法だと思ひますが、一々その理由を申述べることは茲には不適當と存じますので、止めますが、少しく衛生と云ふ事を考へられる御方は、銘銘の家庭に於て適當な掃除法を實行されねばなるまいと考へます。

概して掃除には「ハタキ」で塵埃を起てることすら甚だ宜しくない、平素も成るべく塵埃は拭取るやうに致し度いものであります。これには種々の理由がありますが、一例を擧げて申せば大きな校舍や兵營などに於て、一方の室は「ハタキ」掃除を全廢して凡て濡雜巾で塵埃を拭取ることゝし、他の一室は從來のバタ／＼掃除を續けることゝして試驗して見た所が拭取り掃除を實行した方の室からは、他に比べて肺

病患者を出すことが、餘程少なかつたと云ふ成績が擧つて居ります。これは單に肺病に就てだけの事でありますが、其他の點から見ましてもバタ〳〵掃除の非衞生的なことは爭はれぬ事であります。併し從來の日本風の家屋では何とも致方のない場合が多いのでありますから、成るべく何もかも根本的に改革したいものであるけれども、それもなりませんが、せめてはこの疊と云ふものだけは何とかして日本の家屋内から放逐致し度いものであります。私はこの疊と云ふものがある爲めに、何の位體格を害し健康を損してゐるか分からないと思ひます。これを廢す事が出來れば、吾々日本人種の脚の發育の惡い、殊に膝のガク〳〵するのも直らうし、立居の億劫、不精も改まり、姿勢も一般に好くなり、或は脚氣のやうなのも輕くなるかも知れぬと思ひます。加之ならず疊が除かれますならば、始めて室内の消毒的掃除も實行することが出來るやうになるわけであります。且つ足で歩く處に食膳を据えたり、夜具を展べたりするやうな賤しい風俗も止むことゝ思ひます。特に近來行はるゝやうな道路上で無遠慮に疊を打くなどゝ云ふ野蠻極まつた非衞生、非人道的の惡法を勵行する必要も無くなることゝ思ひます。

それで一般の規則として天氣の模樣も家業の都合も構はず、又實際不潔になつて居らうが居るまいが、そんな事には頓著せず、一定の日一定の時に行はざる可からざるバタ〳〵濛々的大掃除は、御規則として遵奉するとしても、多少衞生思想のある方々は斯樣な非衞生的な行事に由て蒙むるべき害毒を免れるやうに常に心掛けることが肝要であります。即ち自分で行はねばならぬ時は、人の迷惑は顧みるの暇なしとして兎も角も自分だけは成るべく塵埃を吸入しないやうに、肺「ペスト」患者を取扱ふ時に醫者が用心する如く鼻や口を覆ふてバタ〳〵をやり、又斯樣な非衞生を行ふべき日割になつて居る町は通行せぬやうに氣をつけなければなりません。而して夏季に於て所謂土用干の季節に、天氣と家事上の都合の最

も好い日を選むで、出來るだけ衛生的に且つ完全に形式的でなく本式に大掃除をする、それから年の暮に近づき、目出度き新年を迎へる爲めに所謂煤掃をする、この煤掃も昔よりは一層衛生的の知識を應用して卽ち眞の大掃除的に行ひ、その日は勿論家業を休むでも、一家擧つて惡魔拂ひをしたと云ふ氣分で下女下男に至るまで湯に入つて、著物を著更へて祝つたならば、如何に目出度き衛生的行事でありませう。

私は御規則的、杓子定規的の大掃除の效少なくして害毒の甚しいをの觀て、これは廢する事の出來ないものとすれば、成るべくその害毒を免れつゝ形式は形式として濟す旁、一方我邦古來の土用干及び煤掃の行事を二十世紀的に衛生的に復活し向上せしむるやうにしたいと希望するものであります。

料理法講義

服部茂一

これは作樂館に於ける私立大日本婦人衛生會の十月の例會にて料理法を行へる際、當日の料理に就て講師服部氏の說明されたる所を速記したものであります。

ビーフトマトイン、ポテト、クルスタード

あれは材料四人前にして申上げませう、大概四人前位が一番需要が多いと思ひます。少し大きな馬鈴薯四個位の皮を剝いて、五分位の賽の目又は亂切に切りまして、煮湯の中に入れてゆがき、少しゆがき過ぎる位に軟かに致しまして、ゆがき上つたならば笊の中にすつかりあけて、水を斷つてしまひます。さうして又元の鍋に移して混ぜながら二三分間火にかけて置きます。さうすると馬鈴薯は粉をふいたやうになりますから、其場合に裏漉にかけまして、卵の黃味一個を入れて、それから鹽一摘みと胡椒少量加へ

まして、鍋に入れてもう一度かきませ良く煮詰めるよく煮えましたらお皿のやうな物にあけて十分間ばかり冷まし置く、それからそれを四分の一に分けまして冷めましたならば次に「メリケン」粉を付けて、四分の一を細長く卵形のやうに圓めて、其上に最前黄味を使つた殘りの白味を筆の先で塗るのであります。塗りましたならば「パン」粉を塗りまして、さうして今度は服部式「パイザラ」……他に販賣品が無いから特に斯う申上げる譯です、……其上に「バター」を敷き今の馬鈴薯を載せ、馬鈴薯の上に「バター」を少量載せて「フライ」鍋に入れ、服部式手輕「テンピ」を被せ、其上にも火を載せまして燒くのであります。火は下火三分上火が七分、餘り強いといけませぬ、さうして四五分間すると、丁度ほんのりと皆さん御覽になつた通りになります。其場合に下して、今日は無かつたから庖刀で致しましたけれどもあれでは恰好が惡くなる、「オムレツ」返しで致しますと恰好が良うございます。さうして其上を四角一寸位切拔きまして、蓋のやうな物を拵らへて置く、それだけの用意が出來ましたら、洋食皿の向ふの方へやつて、箱の蓋見たやうに置きます。

それから今度は「フライ」鍋の中に「バター」を中匙一杯位溶かしまして、それから玉葱一個の四分の一位を微塵に刻みまして油煎め、玉葱が油煎まつたならば今度は牛の肉を五分位の賽の目に切る、それは四十匁程求めるのです。それに鹽と「メリケン」粉を撒つて置いた物を入れて油煎めまして、油煎まりましたらば、今度は「スープ」大匙に六匙位入れ、それから今度は「トマト」です。瓶入「トマト」を入れまして鹽と胡椒と生姜の搾汁を入れて味を付けます。程よく味が付きましたならば、片栗粉中匙一杯位を水で溶きまして、とろりとなつた頃卸して、最前拵らへて置いた馬鈴薯の箱見たいに出來て居る箱の蓋を、立て掛けたやうにして置く、「ビーフトマトイン、ポテト、クルスタード」お分りになつたでせう。

豚のロース

それから此豚の「ロース」です。是はもう極く簡單な物でありますが、忩いだ爲に手を二つばかり省いたが、本當にやればもつと美味しいのです。豚「ロース」肉を四人前に對する百目大切の儘お求めになり、食鹽小匙一杯、胡椒三分の一ばかりを全體にお撒掛けになる。さうしてそれが濟みましたらば、「ホーク」を持つて來て其肉をぼつ／＼突を拵らへ、ごしごし揉むと中まで味が滲み込みます。さうして今度は服部式「バイサラ」の中に「バター」を薄く敷きまして、肉の上に「バター」を中匙一杯位入れまして、さうして人參を一寸程微塵切にします。微塵も荒くて宜しうございます。玉葱一個ぞく／＼切つた物を入れ、さうして燒きます。さうして七八分間致しますと丁度四分通り燒けますから、其場合卸して四ッ切に切りまして、さうして今度はもう一度服部式「バイザラ」の中に入れまして、約三四分間燒きます。それを今度は肉皿に一切づゝ盛りまして、それから今度は林檎一個の皮を剝いて、五分位の賽の目又は亂切に切ります。さうして水を一合位、砂糖大匙二杯程入れて四五分間煮ます、さうしたならば其林檎を附合せに合觸つてさうして出すのであります。お序でございますが此林檎は、美味しい林檎をすると不味い、林檎は成るべく不味くて、さうして堅い物が却つて良いのです。是を煮ると大變美味しくなります。是は御參考迄に申上げて置きます。それからよく林檎の皮を剝いてお客樣に出す場合がありますが、其時黑くなつて居るのを幾らも見受けますが、實に體裁の惡いものでございます。又衛生にも惡いのであります。先づお丼の中に水一升に對する鹽大匙二杯位、林檎を剝きまして適宜に切りましてざつと、眞のざつと洗ふ、さうして今度は客用の皿に盛つて出します。さうすると十時間位は色が變らない、又衛生にも宜いのであります。

燒麵麭レモン入ホワイトソース

序に申上げます。今日の燒麵麭「レモン」入「ホワイトソース」、あの「パン」はどうでございましたか知ら

ぬが、卵を使ふ筈でございましたが先日來四錢五厘のが七錢五厘だからどうも使へなかつた、其爲に卵を倹約しました、で「パン」半斤程を三切或は四切にほどよく切りまして、緣を落してしまふ、緣は皆さんでも大概お捨てになつて居るやうでありますが、是は後で申上げませう。其今の「パン」に「バター」を薄すくぬりまして、さうして網に掛けて燒く、ほんのりと燒けましたら二切程「パン」皿に盛つて置きまして、其上に「レモン」入り「ホワイトソース」を掛けて戴く。「ホワイトソース」を拵らへますには「メリケン」粉大匙に輕く一杯を一合の牛乳で塊の出來ないやうに上手く溶し、さうして一度裏漉に掛けると宜しい、さうして砂糖大匙山盛一杯程入れまして、それだけの用意が出來ましたら別の鍋に「バター」小匙一杯煮溶かし、溶けました頃今の牛乳「メリケン」粉砂糖合せて置いた物を入れる。入れましたならばそつと掻混せながら、火が強ければ二三分間でとろりとなつて來ます、弱ければ十分間絶えず混せて居ると、とろりとなつて來ます。さうしましたら卸しまして、卸すと同時に「レモン」二三滴を入れるのであります。

それから今話殘して置いた「パン」の耳頭をよく捨ててありますが、それを布巾で包みまして沸かし釜に入れて、沸かして是を「レモン」入り「ホワイトソース」で霑へてしまふ。さうして「パン」皿に程よく盛て出して置く、お客樣にも出す、是を非常に歡迎します。成るべくなら行りたかつたけれども、今日は高貴の方々ばかりで失禮になるだらうと思つて御遠慮申して居りました。

チヤスナツトプチング

是は栗の鬼皮、詰り外の皮、これを附いた物を五合に對する分量は、牛乳一合、それから卵一個半、それから砂糖が大匙に四杯程、是だけが分量になつて居ります。それで栗は皮を剝きます。水に二三十分間程浸けて置きますと綺麗に剝けます。よく金緣目鏡を掛ける金が有つても栗の皮を少し厚く剝くのが

惜しい方があります、さういふことの無いやうに思切つて皮を剝いて、三四十分程浸けて置きましたら今度はゆがきます。十分間ほどすると水が濁つて來ます。其水を一遍捨てまして、さうしてもう一遍ゆがく軟く、要するに錐の先が通る位になりましたら水を捨てゝ笊に揚げます。さうして栗五合に對する水一合、砂糖大匙四杯入れまして煮るのであります。軟く煮える時は大方無くなつてしまふ位になります。汁が有つたら捨てゝ宜いのです。さうして今度は其栗を裏漉にする。裏漉にかけました物に對して、今申上げた卵一、牛乳一合、食鹽三つまみ程混合せまして、さうして服部式「パイ」皿に流込みまして、「フライ」鍋に入れて服部式手輕「テレビ」を被せて上火六分下火四分で燒きます。さうして四五分間すると、ほんのり焦げて參ります。さうしましたら上も下も半分より一寸多い位に火をおゝこしになつたが宜しい、さうして俎板にそつと移すと取れます、さうして四つなら四つ六つなら六つに切ります。

お序に申上げますが「パン」を知らないお方は、新しいのは燒かずに食べて古いのを燒いて食べる、所が是はまるで反對であります。此方は婦人衞生會でありますから特に御研究でありませうが、萬一知らぬ方が有つたらいけませぬから御參考に申上げませう。古いのは燒かずに食べて宜しい、新しい「パン」は絶對的に燒かぬと衞生に惡い、あれには惡い水分が殘つて居る、それで其儘食べると中毒するですから新しい「パン」は是非とも燒かなければいけませぬそれで皆さんが燒かずとも宜いと仰つしやつたけれども、斯ういふ次第でありますから惡しからず、特に衞生を重んじたのであります。新しい「パン」は是非燒かなければ中毒します。知らない方が澤山ありますから申上げて置きます。

抄録

肌を白くする法

醫學士高橋毅一郎述（婦人、第一卷第六號）

皮膚の一番上の角層に色素が多く含まれてをる爲に一寸見ると黒いすなほこりをかぶつたか、又は垢でもたまつてゐるやうに肌が黒く見えるのは、石鹸やお湯でいくら洗つても決して落ちない。石鹸で洗つては反つて黒いのが鮮やかになる。石鹸は普通「アルカリ」性であるが、これには反對に酸性のものを用ひなければならぬ。即ち醋酸と「グリセン」とを適當に混ぜた處方がある。又過酸化水素水、過酸化「ナトリウム」などが應用される。但し此等の藥が髮につけば、黒髮が鳶色になるから注意を要する。

角層よりも深部の種子層といふ部分に色素が多い爲に肌の黒く見えるのには、その色素を角層の方におびき出し、角層の薄皮を剝がすやうにして同時に色素をも除いてしまふ。これには「レゾルチン」と云ふ藥が應用される。又白降汞といふ水銀劑を主とした軟膏を用ひ、何れも皮膚がかさ／＼になつて薄皮のむけるやうになるのを待つて亞鉛華「パスタ」を塗つて直ほす。

以上の方法は有效であるが、濫用すれば何れも危險がある。且つ斯樣な方法で色素が除かれても、その後から再び色素が溜つて來ることを忘れてはならぬ。これを防ぐには完全な方法はない。唯だ菫外線を防ぐのは有利である。即ち日に焦けるのはこの菫外線に由るのであるが、その豫防藥としては高橋順太郎博士の創製された「ルチゲン」といふものが販賣されて居る。肌を白くする内服藥としては亞砒酸劑が效があると稱せられて居るが、勿論濫りに用ふべきものではない。

雜報



○英國嬰兒展覽會

先頃ウエストミンスター中央會堂に嬰兒展覽會開かれ、英皇后始め貴顯有志多數列席し空前の盛況を呈したりと云ふ。席上某博士の演説によれば、全英國毎年の死産十萬、生後一箇月内の死亡十萬人ありて北佛戰場の戰死者よりも多し、併し注意によりその三割は容易に養育し得べしと、當日の會場に、一負傷兵の刺繍に係る大旗掲げられあり『我々は戰場にて奮闘せん。卿等は家庭に在りて育兒に全力を注げよ』と大書せり。同會場には育兒用牛乳部、肺結核豫防部、手當看護部、媬姆部、玩具部の各部門を設け、それ〴〵有益の參考品を出品せり。尚ほ英國にては戰時育兒救濟費として新に六千萬圓の義金を募集する筈なりと。

○乳兒死亡原因調査

大阪府衞生課にては保健調査の第一着手として乳兒の死亡原因調査に着手し主任布上女醫親しく當該家庭に就て實地に亙り詳細取調べつゝあるが應答上の便を圖るため豫め調査票と共に左記の趣意書を家庭に送り置き次で訪問することゝなり居れり。

訪問の趣旨

兩三日中に當課の醫師が乳兒に關する調査の爲訪問します、さて從來の統計によると日本の乳兒死亡は年々増加する一方で殊に我大阪では最近の調査に依ると平均百人の死亡者中三十人迄が皆滿一歳にもならぬ乳兒の間に黄泉の客となつた樣な次第でありますこの事はその乳兒の爲兩親の爲一家の爲國の爲に最も歎ずべき事ではありませんか、そこで乳兒の親達はどうにかして健全に育てあげることについて充分注意をせねばなりません、當局者も此點につき特に憂慮して其豫防方法のため育兒園榮養品販賣所其他種種の設備を理想的に完成する計畫で居ります、がしかし何故にこんなに乳兒死亡が多いかといふ原因について尚一層の研究をせねばならぬのであります、内務省では昨年來各種の調査を開始しました、大阪も今後市内に乳兒死亡のある毎に一々詳しく其前後の状況を調査することになりました、承れば貴方にも御不幸がありましたとの事で誠に御氣の毒であります、しかし右の理由に基き當課より訪問しました時にはありの儘おかくしなく應答せられんことを願ひます、調査事項は一切祕密を嚴守して貴方の名譽に關する樣なことは決してありません、又他の官公署との關係等は全

然ありません、訪問します醫師は「大阪府保健調査員之章」を携帯して居ります。

同封の調査票は訪問受領の際まで保存しておいて下さい、其各項目につきお氣付の點を御記入下されば至極便利であります。

大阪府警察部衛生課

廣告

○私立大日本婦人衛生會例會

同會十一月例會は去る五日午後一時よりお茶の水高等女學校作樂館に於て開會、醫學博士田澤鐐二氏は「女子の體操と」題し、歐羅巴婦人の體育振りを紹介し、我邦の婦人も眞面目に國家の爲めに自個の體格姿勢を改善するに努めざるべからざる事を力說し、種々の圖及び寫眞を示して體操法の生理衛生的原理に就て面白く懇切に說明せられ、次に醫學博士岡田和一郎氏は、過般公用にて亞米利加を視察せられたるお土產話として、亞米利加に於ける婦人の事業、殊に醫事衛生に關係せる婦人の活動につき、我邦婦人の參考となるべき種々有益なる講話あり、午後四時閉會せり。當日は役員及び會員の他女子高等師範學校生の傍聽にて特に盛況を呈したり。因に當日の出席役員姓名を擧ぐれば左の如くなりき。

鍋島侯爵夫人　濱尾男爵夫人
三浦敦子　鳩山春子　近藤憲子　高木鐐子
山口貞子　山本多穂子　岡田德子　原みつ子
小川孝子　松井正子　三宅藤子　(以上出席順)

○入會者

○事務所申込み
千葉縣長生郡鶴枝村下永吉　通常　林ウメ子
北海道空知郡歌志内村市街地　通常　朝倉さだ子

○新潟支會
○澤田イッ子紹介　通常　高橋菊枝子
通常　富永ノリ子

○轉居

府下より芝區白金三光町二六三へ　小田切桂子
麹町區より府下大久保百人町五二へ　中濱若子
麻布區より芝區高輪北町五二へ　小松勇子
府下より本郷區西片町十へノ二號へ　藤村晴子
同　上　藤村貴美子
大阪より府下目黑行人坂下へ　石田裕子
麹町區より府下原宿一七二六へ　村井光子

私立大日本婦人衞生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事	鳩山春子	同	長谷川仲子
同	岡田德子	同	高木鐐子
同	山本多穗子	同	三浦敬子
同	松平芳子		
評議員	入澤常子	同	羽田三緒子
同	濱田捨子	同	服部繁子
同	原みつ子	同	仁禮壽賀子
同	西升子	同	土肥多越子
同	緒方悅子	同	岡山とし子
同	小川孝子	同	男爵母堂　加藤鈴子
同	片山龜子	同	吉岡彌生子
同	丹波貞子	同	高橋孝子
同	田村きよ子	同	武田貫子
同	鶴原誠子	同	男爵夫人　南部隈子
同	中濱芳子	同	山口貞子
同	子爵母堂　松井正子	同	古市幸子
同	小松いさ子	同	近藤憲子
同	天野多喜子	同	岸澄子
同	菊池米子	同	三宅藤子
同	宮本槃子	同	守屋千代子

大正六年十一月十七日印刷
大正六年十一月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地　荘司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　櫻井新三郎
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市本郷區駒込林町二番地　私立大日本婦人衞生會事務所

賣捌所

東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鈴屋町　正明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

婦人衛生雜誌第三百三十六號（大正六年十一月二十日發行）明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回[illegible]）